

博士論文（要約）

冷戦変容期の日ソ関係：  
多極化の時代における対立と共存、1964～1974年

張 彬彬

## 目次

序章	1		
<b>第一節 課題と方法</b>	<b>1</b>		
問題の所在	1／先行研究の状況	6／本論文の視座	8
本論文の構成と使用した史料	14		
<b>第二節 国交回復後の日ソ関係——岸・池田とフルシチョフの時代</b>	<b>15</b>		
日本中立化政策と日米安保改定	15／池田外交とミコヤン来日	21	
大口徑鋼管の対ソ禁輸問題と日本	25／中ソ対立とミコヤン再来日	29	
<b>第一章 佐藤政権前期の日ソ関係</b>	<b>40</b>		
<b>第一節 佐藤外交の始動と日ソ関係</b>	<b>42</b>		
フルシチョフ失脚と中国核実験	42／佐藤訪ソ問題の幻	47	
ベトナム戦争をめぐる和平外交	50／小括	57	
<b>第二節 日ソ外相定期協議の成立</b>	<b>58</b>		
椎名訪ソとベトナム問題	58／椎名訪ソと日ソ間の懸案	62	
イシコフ訪日と日ソ漁業交渉	67／グロムイコ訪日と北方領土問題	70	
小括	77		
<b>第三節 「中間的措置」の虚と実</b>	<b>79</b>		
三木訪ソ、コスイギン提案と潜在主権論	79		
大郷正夫提案と「フィンランド方式」	84／米国の関心とソ連の思惑	87	
日本側対案の形成	92／中川・ヴィノグラードフ会談と杉山茂雄提案	97	
「中間的措置」の凍結	103／小括	108	
<b>第二章 佐藤政権後期の日ソ関係</b>	<b>119</b>		
<b>第一節 アジア冷戦の変容と日ソ関係の停滞</b>	<b>121</b>		
中ソ国境紛争をめぐる日本の認識	121／アジア安保構想と愛知訪ソ	127	
沖縄返還合意をめぐる日ソの応酬	135／小括	139	
<b>第二節 北方領土問題をめぐる二正面作戦</b>	<b>142</b>		
北方領土返還運動の政治的背景	142／二正面作戦の展開	146	
佐藤国連演説の波紋	149／二正面作戦の蹉跌	152／小括	158

<b>第三節 米中接近のなかの日ソ関係</b>	<b>161</b>
ニクソン・ショックと日ソの反応	161
小坂訪ソ、パトリチェフ訪日と宮本訪ソ	167
グロムイコ訪日とニクソン訪中	176
日ソ関係をめぐる英米日の見方	185／「ポスト佐藤」への展望
小括	204
<b>第三章 田中政権時代の日ソ関係</b>	<b>216</b>
<b>第一節 中ソを睨む日本外交</b>	<b>218</b>
田中政権の発足と対ソ交渉の展望	218／ソ連の対日認識と方針
田中訪中と大平訪ソ	228／小括
<b>第二節 田中訪ソへの道</b>	<b>240</b>
田中親書発出の政治過程	240／日本の対ソ認識と交渉姿勢
ソ連の対日交渉方針	257／日ソ首脳会談の開催
小括	272
<b>第三節 チュメニ油田開発問題の歴史的考察</b>	<b>275</b>
シベリア開発協力問題の内と外	275
対日原油供給量の削減——第一次提案変更	282
「バム鉄道」の波紋——第二次提案変更	286
日米協議の展開とチュメニ問題の凍結	291／小括
小括	297
<b>終章</b>	<b>310</b>
アジア冷戦の変容と日ソ関係	310
北方領土問題と北洋漁業問題の交錯	314
シベリア開発協力問題の位相	317／日ソ接近はなぜ失敗したのか
小括	319
<b>主要参考文献</b>	<b>323</b>

## 要約

本論文は、国際政治の「多極化とデタント」の時代として特徴づけられる 1960 年代後半から 1970 年代前半までの日ソ関係の展開を考察するものである。主として、北方領土問題と北洋漁業の安全操業問題、そしてシベリア開発協力問題といった三つの懸案に焦点をあてて、その相互の関係性に注目しながら、冷戦変容期の日ソ接近が不発に終わった原因と背景を明らかにしている。冷戦の終結前後で活発化していた北方領土交渉が時事問題ではなく歴史の一部となった現在においては、より前史をふまえた理解が必要になってくると考えられる。なぜなら、その時期の領土交渉における諸構想の原型が多く、冷戦真っ只中の 1960 年代後半から 1970 年代前半に求められるからである。そこで本論文は、基本的に日本外交史の視点に立脚しつつ、ソ連側の動向や日ソ双方を取り巻く国際環境の変動を視野に収めることで、北方領土問題とこれに関連づけられた経済問題の交渉経緯やその背後にあった日ソの安全保障観の対立を詳しく分析している。資料面では、日米英露を中心に新たに公開された多数国の一次史料を活用するマルチ・アーカイバルな研究手法を取っている。

本論文は、序章と終章を含めて全 5 章から構成される。序章では、先行研究を整理しつつ、本論文で扱う冷戦変容期の日ソ関係史研究という主題の意図を述べた。その上で、国交回復直後の日ソ関係の展開を、二国間の外交折衝と国際環境の変動という二つの文脈から概観した。

第 1 章「佐藤政権前期の日ソ関係」では、佐藤栄作政権が 1964 年から 1968 年にかけてソ連との共存関係をいかに模索したのかについて、ベトナム戦争をめぐる和平工作の展開と日ソ平和条約に関する「中間的措置」への対応を軸に検討した。1965 年初頭の北爆開始以降、佐藤政権はベトナム問題をめぐる日ソ間の政治対話を促進するべく、日本側が米国への説得工作を担う代わりにソ連側が北ベトナムに対する和平交渉の打診やそのための国際会議の招集で主導権を発揮する、という役割分担の構図を描くに至った。日本が対ソ提携の模索に意欲を示した背景には、中国の核実験成功に対する脅威認識やブレジネフ新指導部によるソ連の対日アプローチ、またソ連の「平和共存」志向の継続に対する確信などの要因が挙げられる。しかしながら、ソ連側が北ベトナム擁護の立場から米国による戦争責任の追及を第一義としたのに対し、日本側はあくまで仲介者の立場から、ベトナム戦争の当事者を無条件で交渉に入らせることに軸を置いていた。こうして地域の紛争解決をめぐる日ソ協力の模索は結実しなかったが、その副産物として、外相間定期協議の開催が合意されるなど両国間の政治的信頼関係の構築が大きな進

展を遂げた。日ソ定期協議の成立は、後日の平和条約交渉を行う上での制度的基盤を築いたという意味において特に重要である。

1966年に入る頃から、日ソ間の最重要懸案である北方領土問題は、北洋近海の安全操業問題と絡みながら動き出した。佐藤政権は当初、日ソ関係の諸問題を北方領土問題と絡めることなく実務的に対処することに関心を注いでいた。しかし、拿捕事件の多発による安全操業問題の緊迫化を受けて、佐藤政権は北方領土問題自体への取り組みに着手せざるを得なかった。その帰結として日本外務省から、「非武装化」と「経済的補償」を北方領土返還の条件に定めた提案が1966年に、さらに潜在主権の承認に基づく四島の「段階返還」方式プラス安全操業交渉と並行する形で国後・択捉の「継続審議」方式という二段構えの方針を内容とする提案が1967年に、それぞれソ連側に提示されることになった。これに対してソ連は、従来の「四島返還」論を改装したものに過ぎないこと、また北方領土の非武装化構想が日米安保の現実と整合しないことなどの問題点を指摘し、いずれの提案も受け入れなかった。このように外務省の作戦は頓挫したが、それと並行して模索された佐藤首相周辺の領土返還構想は日ソ交渉再開の余地を残した。その到達点は、戦後日本の領土問題を扱うサンフランシスコ平和条約第2条の改訂作業を行うことと、関係諸国が統一見解に達しえなかった場合の国際司法裁判所への付託という二段階方式を持つ「国際的解決」案の誕生にほかならなかった。

第2章「佐藤政権後期の日ソ関係」では、1970年前後の国際情勢の激変が同時期の日ソ関係の展開に及ぼした影響を明らかにした。中ソ国境衝突の発生を受けて日本の外務官僚は、中ソ関係のさらなる悪化が日本外交の展開に有利な一面もあるとの見解で一致した。同時に、ソ連から打診されたアジア集団安保構想については、外務省はそれを戦後の国境問題に対するソ連の現状維持外交の一環として捉えたがゆえに、当初から否定的な態度を示していた。一方で、佐藤政権は沖縄返還交渉を進めるにあたって、日本国内の反対運動の封じ込めや米議会・世論の説得を図る観点から、日本の国民世論の啓発を中心とする北方領土返還運動への支援を強めた。日米間の沖縄返還合意が1969年末に成立すると、日本政府は北方領土問題の解決に向けて国内向けの世論工作よりも、日ソ二国間の「外交戦」と国際社会向けの「宣伝戦」を同時並行で進める「二正面作戦」を重視するようになった。その方針転換は佐藤政権にとって、北方領土の帰属問題を討議するための国際会議を見据えた「前哨戦」でもあった。しかしながら、主要な協力相手国として期待されていた英米両国が確固たる不介入の姿勢を貫いたため、佐藤政権はやがて北方領土問題の「国際的解決」への模索を棚上げにせざるを得なくなっていった。

1971年7月のニクソン訪中発表で本格化した米中接近の衝撃を受けて、日ソ双方はそれぞれ

の国際的立場を強化する目的から、互いに相手国への接近を図ろうとした。日中関係の正常化を求め、対ソ接近を対中外交の梃子として利用しようとした佐藤政権と対照的に、ソ連指導部は日米中による反ソ的統一戦線の結成を防ぐ観点から、日本との関係改善を喫緊の課題に据えていた。その結果、ソ連外相はニクソン訪中の直前に日本を訪れ、1956年の日ソ共同宣言に基づく「二島返還」の約束を持ち出したが、佐藤政権から積極的な反応を引き出すには至らなかった。「四島返還」にこだわった日本政府の不退転の姿勢は、同時期の北洋漁業の安全操業問題やシベリア開発協力問題をめぐる日ソ協議の停滞にも繋がった。1971年段階の佐藤政権は安全操業の希望水域について従来の交渉方針との継承性を無視する一方、シベリア開発協力問題についても「民間主導・行政支援」を骨子とする「政権分離」の原則から脱却し、それを対ソ圧力行使の手段として位置づけるようになったのである。

第3章「田中政権時代の日ソ関係」では、まず日ソ接近の到達点としての日ソ首脳会談の開催に至るまでの政治過程を跡づけ、その上で、チュメニ油田開発計画の展開を中心に据えながらシベリア開発協力問題の戦略的意味を考察した。田中新政権の発足を受けてソ連指導部は、即座に日ソ平和条約締結に向けての基本方針を策定した。それは、日ソ交渉を妥結に持ち込むためには「二島返還」だけでは不十分であると判断し、国後・択捉島に関しても安全操業や共同経済活動など実質的な諸権益を日本側に与えることを考慮に入れた内容となっていた。ソ連がこのような対日譲歩を検討していたのは、日ソ関係の改善が日本の対中接近を牽制することになると考えたからである。しかしながら、1972年9月に日中国交正常化が実現したことで日中接近牽制への期待が裏切られ、かつ北方領土の戦略的意義に対する再評価が行われている状況の中で、ソ連は対日政策を転換していく。対米関係の改善や東欧国境をめぐる対西側外交の進展を梃子にしてソ連は、北方領土に関する権益の供与を段階的に撤回するなど対日外交において次第に強硬な姿勢に転じるようになった。その結果、1973年の田中首相訪ソの際にソ連指導部は、国後・択捉の帰属問題を継続審議の対象としつつ北洋漁業の安全操業問題を政治的に解決しようとする日本側の要求を拒否した。

このように北方領土交渉は再び暗礁に乗り上げていくが、その後の日ソ関係において共存と協力への道が完全に閉ざされたわけではなかった。むしろ、対ソ資金供与に関する大筋合意の成立に示されるように、田中訪ソ後でも日ソ経済協力の分野は進展を見せていた。しかしながら、シベリア開発協力の目玉事業として有望視されたチュメニ油田計画は、ソ連の二回にわたる提案の変更とそれに伴う日本政府の対ソ不信感の高まりにより、全く実行に移されないまま日ソ関係の表舞台から消え去った。同案件に対する日本の不参加決定には、経済的・技術的に

問題点が多いことや、米中の反対が予想されることのほか、安全保障問題にも絡む理由があった。それは、対日原油供給手段の代替案として提出された第二シベリア鉄道の建設計画をめぐる問題であったが、同路線に対して日本外務省は安全保障上の脅威となり得ると警戒していた。

終章では、これまでの議論を総括しながら、なぜデタント期にもかかわらず日ソ接近がさほど進展しなかったのかについて若干の考察を加えた。東西間の緊張緩和が頂点を迎えた頃に開催された日ソ首脳会談において、北方領土問題も北洋漁業問題も「戦後未解決の諸問題」という曖昧な表現にたどり着いたにとどまった。このように日ソ接近が不十分に終わった理由として、1973年の第四次中東戦争とそれに伴う第一次石油危機からの悪影響や、首脳会談に臨んだ両国指導者の個性の衝突など、主に短期的・偶発的な要因は既存の研究により列挙されてきた。これに対して本論文は、日ソ相互認識のズレやそれぞれの国内政治との連動、また同時代の国際政治力学の拘束といった観点から構造的・巨視的に捉える必要があることを最後に指摘した。

(5年以内に出版予定)

## 主要参考文献

### 未公刊史料

外務省外交史料館、東京  
戦後期外務省記録  
情報公開法に基づく開示文書  
外務省開示資料

### 公刊史料

#### 日本

石井明・朱建栄・添谷芳秀・林暁光編『記録と交渉 日中国交正常化・日中平和友好条約締結交渉』岩波書店、2003年。

石井修・我部正明・宮里政玄監修『アメリカ合衆国対日政策文書集成』（第9～38期）、柏書房、2001-2016年。

外務省中国課監修『日中関係基本資料集』霞山会、1970年。

『近現代史料データベース』（<https://j-dac.jp/MJPH/index.html>）。

『楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）』、『大平正芳関係文書』、『三木武夫関係資料』

『国会会議録検索システム』（<https://kokkai.ndl.go.jp/#/>）。

末澤昌二・茂田宏・川端一郎編『日露（ソ連）基本文書・資料集 [改訂版]』RPプリンティング、2003年。

データベース「世界と日本」（<https://worldjpn.grips.ac.jp/>）。

服部龍二「田中首相・ニクソン大統領会談記録——1972年8月31日、9月1日」『人文研紀要』第68号、2010年。

細谷千博・有賀貞・石井修・佐々木卓也編『日米関係資料集 1945-97』東京大学出版会、1999年。

北方領土問題対策協会編『北方領土返還運動 50年史』北方領土問題対策協会、1996年。



## 米国

Access to Archival Databases, National Archives (<https://aad.archives.gov/aad/>).

*Confidential US State Department Central Files: Japan, 1960-1969*, University Publications of America, 1999 (マイクロフィルム版, 国立国会図書館憲政資料室所蔵のものを利用) .

*Digital National Security Archive, Japan and the United States: Diplomatic, Security and Economic Relations, 1960-1976* (<http://nsarchive.chadwyck.com/>).

History and Public Policy Program, Woodrow Wilson International Center for Scholars (<https://digitalarchive.wilsoncenter.org/>).

U.S. Declassified Documents Online (<http://tinyurl.galegroup.com/tinyurl/>).

U. S. Department of State, *Foreign Relations of the United States*.

## 英国

*Foreign Office Files for Japan and the Far East, Series Two: British Foreign Office Files for Post-War Japan, Parts 1-8: Complete Files for 1952-1974*, Adam Matthew Publications, 2005 (マイクロフィルム版, 国立国会図書館憲政資料室所蔵のものを利用) .

## ロシア

*Брежнев, Л. Рабочие и дневниковые записи в 3-х Томах — Том 1: Леонид Брежнев Рабочие и дневниковые записи 1964–1982 гг.* Москва: Истлит, 2016.

(『ブレジネフ勤務日録 全3巻 第1巻 1964～1982年』モスクワ、2016年)

*Максименков Л. «Курильский» саммит. Визит премьер-министра Японии К. Танаки в СССР (7–10 октября 1973 года): Документы и записи переговоров.* Москва: АИРО-XXI, 2020.

(『「千島列島」サミット 田中角栄首相の訪ソ (1973年10月7日～10日) : 文書と交渉記録』モスクワ、2020年)

*Совместный сборник документов МИД Российской Федерации и МИД Японии по истории территориального размежевания между Россией и Японией.* Токио: Мид Японии, 1992.

(『日露領土問題の歴史に関する日本国外務省とロシア連邦外務省の共同作成資料集』東京、1992年)

*Милошевич М., Тарасов В.П., Томилина Н.Г. (ред.). Встречи и переговоры на высшем уровне*

руководителей СССР и Югославии в 1946–1980 гг. — Том 2: 1964–1980. Москва: Международный фонд "Демократия", 2017.

(『1946年から1980年にかけてのソ連とユーゴスラビアの国家指導者の首脳会談とトップレベルの交渉 第2巻 1964～1980年』モスクワ、2017年)

## 定期刊行物

### I 新聞

『朝日新聞』『東京新聞』『日本経済新聞』『北海道新聞』『毎日新聞』『読売新聞』

### II 雑誌

『経済と外交』『経済評論』『経団連月報』『内閣官房調査月報』

## 回顧録、日記等

新井弘一『モスクワ・ベルリン・東京——外交官の証言』時事通信社、2000年。

キッシンジャー、ヘンリー（斎藤弥三郎 [ほか] 訳）『キッシンジャー秘録 第4巻 モスクワへの道』小学館、1980年。

楠田實（和田純・五百旗頭真編）『楠田實日記——佐藤栄作総理首席秘書官の二〇〇〇日』中央公論新社、2001年。

佐藤栄作（伊藤隆監修）『佐藤栄作日記』全6巻、朝日新聞社、1997-1999年。

丹波實『わが外交人生』中央公論新社、2011年。

東郷和彦『北方領土交渉秘録——失われた五度の機会』新潮社〔新潮文庫〕、2011年。

新関欽哉『日ソ交渉の舞台裏——ある外交官の記録』日本放送出版協会、1989年。

早坂茂三『早坂茂三の「田中角栄」回想録』小学館、1987年。

*Капица, М.С.* На разных параллелях: записки дипломата. Москва: Книга и бизнес, 1996.

(『様々な平行線に立って——外交官の記録』モスクワ、1996年)

*Трояновский, О.* Через годы и расстояния: история одной семьи. Москва: Вагриус, 1997.

(『歳月と距離を通り抜けて——ある家族の歴史』モスクワ、1997年)

## 単行本・雑誌論文

## I 日本語文献

麻田雅文「中ソ対立の激化とイギリスの中立化——六〇年代を中心として」『国際政治』第 173 号、2013 年。

新井弘一・岩見隆夫（聞き手）「田中訪ソ、七三年交渉の回想」『外交フォーラム（特集 日露・日ソ関係をふり返る）』1991 年 3 月。

五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣〔有斐閣ブックス〕、2008 年。

——編『戦後日本外交史〔第 3 版補訂版〕』有斐閣〔有斐閣アルマ〕、2014 年。

——・下斗米伸夫・A.V.トルクノフ・D.V.ストレリツォフ編『日ロ関係史——パラレル・ヒストリーの挑戦』東京大学出版会、2015 年。

池田直隆「昭和 40 年代の北方領土問題——その内政・外交・軍事との連関」『軍事史学』第 39 巻第 3 号、2003 年。

石井明「珍宝島事件——現地調査に基づく再考察」義江彰夫・山内昌之・本村凌二編『歴史の対位法』東京大学出版会、1998 年。

石郷岡建・黒岩幸子『北方領土の基礎知識』東洋書店新社、2016 年。

井上正也『日中国交正常化の政治史』名古屋大学出版会、2010 年。

岩下明裕『中・ロ国境 4000 キロ』角川書店〔角川選書〕、2003 年。

——『北方領土問題——4 でも 0 でも、2 でもなく』中央公論新社〔中公新書〕、2005 年。

——「ソ連／ロシアの対中・対日外交から学ぶべき教訓」『国際政治』第 201 号、2020 年。

植木安弘「ソ連対日政策形成の構造と動態——対日政策「コンプレックス」と 1971-72 年のソ連対日政策変化過程の研究——」『共産主義と国際政治』第 5 巻第 3 号、1980 年。

ウラム、アダム・B（鈴木博信訳）『膨張と共存——ソヴェト外交史』サイマル出版会、1979 年。

NHK 日ソプロジェクト『NHK スペシャル これがソ連の対日外交だ——秘録・北方領土交渉』日本放送出版協会、1991 年。

大嶽秀夫『ニクソンとキッシンジャー——現実主義外交とは何か』中央公論新社〔中公新書〕、2013 年。

岡田美保「日ソ国交回復交渉の再検討——ソ連による日米安保の「受容」」『国際政治』第 200 号、2020 年。

緒方貞子（添谷芳秀訳）『戦後日中・米中関係』東京大学出版会、1992 年。

落合忠士『北方領土問題——その歴史的事実・法理・政治的背景』文化書房博文社、1992年。

加藤洋子『アメリカの世界戦略とココム 1945-1992——転機にたつ日本の貿易政策』有信堂高文社、1992年。

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年。

菅英輝「ベトナム戦争と日米安保体制」『国際政治』第115号、1997年。

——「ベトナム戦争における日本政府の和平努力と日米関係——1965年~68年」『国際政治』第130号、2002年。

神田豊隆『冷戦構造の変容と日本の対中外交——二つの秩序観 1960-1972』岩波書店、2012年。

——「日ソ関係のロー・ポリティクス——日ソ通商条約の締結と戦後日ソ関係の始動」『法政理論』第49巻第1号、2016年。

ガイドック，イリヤ「中ソ対立とその米中関係への影響——東アジア冷戦構造の変容」菅英輝編『冷戦史の再検討——変容する秩序と冷戦の終焉』（法政大学出版局、2010年）。

ガディス，ジョン・L（河合秀和・鈴木健人訳）『冷戦——その歴史と問題点』彩流社、2008年。

喜入亮『日ソ貿易の歴史』にんげん社、1983年。

北岡伸一『自民党——政権党の38年』中央公論新社〔中公文庫〕、2014年。

キム，ヤン・C『クレムリンの対日戦略——日米中ソ四極構造の中で』TBS ブリタニカ、1983年。

木村汎『遠い隣国——日本とロシア』世界思想社、2002年。

——『新版 日露国境交渉史——北方領土返還への道』角川書店〔角川選書〕、2005年。

クタコフ，エリ・エヌ（ソビエト外交研究会訳）『日ソ外交関係史』刀江書院、1969年。

久保田正明『クレムリンへの使節——北方領土交渉 1955-1983』文藝春秋、1983年。

国分良成・添谷芳秀・高原明生・川島真『日中関係史』有斐閣〔有斐閣アルマ〕、2013年。

コワレンコ，イワン（清田彰訳）『対日工作の回想』文藝春秋、1996年。

斎藤元秀「米中接近とソ連」増田弘編『ニクソン訪中と冷戦構造の変容——米中接近の衝撃と周辺諸国』慶應義塾大学出版会、2006年。

——『ロシアの対日政策（上）（下）』慶應義塾大学出版会、2018年。

酒井哲哉「『9条＝安保体制』の終焉——戦後日本外交と政党政治」『国際問題』第372号、1991年。

——「戦後外交論における理想主義と現実主義」『国際問題』第432号、1996年。

——編『日本の外交・第3巻 外交思想』岩波書店、2013年。

坂本義和「日本における国際冷戦と国内冷戦」『戦後外交の原点（坂本義和集 3）』岩波書店、2004年。

——「『1970年の選択』とは何か」『日本の生き方（坂本義和集 4）』岩波書店、2004年。

佐瀬昌盛『対ソ国交回復交渉の軌跡——戦後日本の政治風土』南窓社、2016年。

佐藤和雄・駒木明義『検証 日露首脳交渉——冷戦後の模索』岩波書店、2003年。

重光晶『「北方領土」とソ連外交』時事通信社、1983年。

下斗米伸夫「冷戦下の日ソ関係」波多野澄雄編『日本の外交・第2巻 外交史・戦後編』岩波書店、2013年。

白鳥潤一郎『「経済大国」日本の外交——エネルギー資源外交の形成 1967~1974年』千倉書房、2015年。

シャラー, マイケル（市川洋一訳）『「日米関係」とは何だったのか——占領期から冷戦終結後まで』草思社、2004年。

朱建栄『毛沢東のベトナム戦争——中国外交の大転換と文化大革命の起源』東京大学出版会、2001年。

ジョンソン, U・アレクシス（増田弘訳）『ジョンソン米大使の日本回想——二・二六事件から沖縄返還・ニクソンショックまで』草思社、1989年。

鈴木啓介『財界対ソ攻防史——1965-93年』日本経済評論社、1998年。

鈴木宏尚『池田政権と高度成長期の日本外交』慶応義塾大学出版会、2013年。

——「池田政権の対共産圏外交——ソ連・中国と『非冷戦化』の模索」添谷芳秀編『秩序変動と日本外交——拡大と収縮の70年』慶応義塾大学出版会、2016年。

田中明彦『米・中・ソのあいだで』渡辺昭夫編『戦後日本の対外政策』有斐閣〔有斐閣選書〕、1985年。

田中孝彦『日ソ国交回復の史的研究——戦後日ソ関係の起点 1945~1956』有斐閣、1993年。

田中浩『戦後日本政治史』講談社〔講談社学術文庫〕、1996年。

塚本哲也『フィンランド化——ソ連外交の論理と現実』教育社、1978年。

外川継男『ロシアとソ連邦』講談社〔講談社学術文庫〕、1991年。

富田武『シベリア抑留——スターリン独裁下、「収容所群島」の実像』中央公論新社〔中公新書〕、2016年。

中島琢磨『沖縄返還と日米安保体制』有斐閣、2012年。

——「沖縄返還と基地問題」波多野澄雄編『日本の外交・第2巻 外交史・戦後編』岩波書店、2013年。

名越健郎『クレムリン秘密文書は語る——闇の日ソ関係史』中央公論新社〔中公新書〕、1994年。

南方同胞援護会・国際法学会編『北方領土の地位——千島・樺太をめぐる諸問題』南方同胞援護会、1962年。

西村文夫「ソ連における政策決定——ブレジネフ政権下における資源分配論争を中心に」西村文夫・中沢精次郎編『現代ソ連論 第2巻 現代ソ連の政治と外交』日本国際問題研究所、1978年。

日ソ・日ロ経済交流史出版グループ編『日ソ・日ロ経済交流史——ロシア・ビジネスに賭けた人々の物語』東洋書店、2008年。

日本ロシア経済委員会編『日ソ経済委員会史——日ソ経済協力四半世紀の歩み 1965-1992』経済団体連合会、1999年。

野添文彬『沖縄返還後の日米安保——米軍基地をめぐる相克』吉川弘文館、2016年。

昇亜美子「ベトナム戦争における日本の和平外交——1965年~68年」『法学政治学論究』第59号、2003年。

長谷川毅『北方領土問題と日露関係』筑摩書房、2000年。

波多野澄雄「総説」同編『日本の外交・第2巻 外交史・戦後編』岩波書店、2013年。

服部龍二『日中国交正常化——田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』中央公論新社〔中公新書〕、2011年。

——『田中角栄——昭和の光と闇』講談社〔講談社現代新書〕、2016年。

原貴美恵『サンフランシスコ平和条約の盲点——アジア太平洋地域の冷戦と「戦後未解決の諸問題」』溪水社、2012年。

ヴァシリューク，スヴェトラナ「一九七〇年代の日ソ・エネルギー協力における政治要因」下斗米伸夫編『日ロ関係——歴史と現代』法政大学出版局、2015年。

パノフ, アレクサンドル(高橋実・佐藤利郎訳)『不信から信頼へ——北方領土交渉の内幕』サイマル出版会、1992年。

平野実『大平外交の2年——外交記者日記』全3巻、行政通信社、1978-1979年。

深海博明「多極化時代の日ソ経済関係——シベリア・極東資源開発の政治経済学」『経済評論』第22巻第1号、1973年。

福永文夫『大平正芳——「戦後保守」とは何か』中央公論新社〔中公新書〕、2008年。

藤澤潤「ブレジネフ外交の岐路——旧東独史料からみる1970年代ソ連外交」『ロシア研究』第90号、2012年。

——『ソ連のコメコン政策と冷戦——エネルギー資源問題とグローバル化』東京大学出版会、2019年。

ホワイティング, アレン・S(池井優監訳)『シベリア開発の構図——錯綜する日米中ソの利害』日本経済新聞社、1983年。

本田良一『日ソ現場史 北方領土——終わらない戦後』北海道新聞社、2013年。

——『証言 北方領土交渉』中央公論新社、2016年。

松岡信之「日ソ漁業交渉と高碓達之助——高碓達之助関係文書の分析を中心に」『政治学研究論集』第35号、2011年。

溝口修平「日ソ国交正常化交渉に対する米国の政策の変化と連続性」『国際政治』第176号、2014年。

宮城大蔵「ふたつのアジア・アフリカ会議と日本・中国」『中国21』第14号、2002年。

村上友章「『国境の海』とナショナリズム——日ソ間昆布採取協定と高碓達之助」『国際政治』第170号、2012年。

毛里和子『中国とソ連』岩波書店〔岩波新書〕、1989年。

百瀬宏「二つの体制のあいだで」渡辺昭夫編『戦後日本の対外政策』有斐閣〔有斐閣選書〕、1985年。

ヤコフ, ジンベルグ「沖縄と北方領土——冷戦後への政治的・法的価値観対立の遺産」『国際政治』第120号、1999年。

柳田邦男『狼がやってきた日』文藝春秋〔文春文庫〕、1982年。

山岡淳一郎『田中角栄の資源戦争——石油、ウラン、そしてアメリカとの闘い』草思社〔草思社文庫〕、2013年。

横手慎二「フルシチョフの極東政策再考」『国際政治』第126号、2001年。

——「スターリンの日本人送還政策と日本の冷戦への道（一）（二）（三）」『法学研究』第82巻第9号第10号第11号、2009年。

吉次公介『池田政権期の日本外交と冷戦——戦後日本外交の座標軸 1960-1964』岩波書店、2009年。

ラフィーバー，ウォルター（土田宏監訳、生田目学文訳）『日米の衝突——ペリーから真珠湾、そして戦後』彩流社、2017年。

和田春樹『北方領土問題 歴史と未来』朝日新聞社〔朝日選書〕、1999年。

若月秀和『「全方位外交」の時代——冷戦変容期の日本とアジア・1971～80年』日本経済評論社、2006年。

若宮啓文『ドキュメント 北方領土問題の内幕——クレムリン・東京・ワシントン』筑摩書房〔筑摩選書〕、2016年。

渡邊昭夫『日本の近代 8——大国日本の揺らぎ 1972～』中央公論新社〔中公文庫〕、2014年。

## II 英語文献

Berton, Peter, “Two Decades of Soviet Diplomacy and Andrei Gromyko”, in Gilbert Rozman (ed.), *Japan and Russia: The Tortuous Path to Normalization, 1949-1999* (Basingstoke: Macmillan, 2000).

Braddick, Christopher W., *Japan and the Sino-Soviet Alliance, 1950-1964: In the Shadow of the Monolith* (New York: Palgrave Macmillan, 2004).

Buckley, Roger, *The United States in the Asia-Pacific since 1945* (Cambridge: Cambridge University Press, 2002).

Burr, William, “Sino-American Relations, 1969: The Sino-Soviet Border War and Steps Towards Rapprochement”, *Cold War History*, Vol. 1, No. 3 (April 2001), pp. 73-112.

Carlile, Lonny E., “The Changing Political Economy of Japan’s Economic Relations with Russia: The Rise and Fall of *Seikei Fukabun*”, *Pacific Affairs*, Vol. 67, No. 3 (Autumn 1994), pp. 411-432.

Chen, Jian and David L. Wilson, “All Under the Heaven Is Great Chaos: Beijing, the Sino-Soviet



- Border Clashes, and the Turn Toward Sino-American Rapprochement, 1968-1969”, *Cold War International History Project Bulletin*, Issue 11 (Winter 1998), pp. 155-175.
- Curtis, Gerald L., “The Tyumen Oil Development Project and Japanese Foreign Policy Decision-Making”, in Robert A. Scalapino (ed.), *The Foreign Policy of Modern Japan* (Berkeley: University of California Press, 1977).
- Ferguson, Joseph P., *Japanese-Russian Relations, 1907-2007* (London and New York: Routledge, 2008).
- Friedman, Jeremy, *Shadow Cold War: The Sino-Soviet Competition for the Third World* (Chapel Hill: University of North Carolina Press, 2015).
- Garthoff, Raymond L., *Détente and Confrontation: American-Soviet Relations from Nixon to Reagan* (Washington, D. C.: Brookings Institution, 1994, Revised Edition).
- Ghebhardt, Alexander O., “The Soviet System of Collective Security in Asia”, *Asian Survey*, Vol. 13, No. 12 (December 1973), pp. 1075-1091.
- Goodby, James E., Vladimir I. Ivanov and Nobuo Shimotomai (eds.), “Northern Territories” and Beyond: *Russian, Japanese and American Perspectives* (Westport, CT: Praeger, 1995).
- Hanhimäki, Jussi M., “An Elusive Grand Design”, in Fredrik Logevall and Andrew Preston (eds.), *Nixon in the World: American Foreign Relations, 1969-1977* (New York: Oxford University Press, 2008).
- Hara, Kimie, *Japanese-Soviet/Russian Relations since 1945: A Difficult Peace* (London and New York: Routledge, 1999).
- Hasegawa, Tsuyoshi, *The Northern Territories Dispute and Russo-Japanese Relations* (Berkeley, Calif.: University of California, International and Area Studies, 1998) .
- Haslam, Jonathan, “The Pattern of Soviet-Japanese Relations Since World War II”, in Tsuyoshi Hasegawa, Jonathan Haslam, and Andrew Kuchins (eds.), *Russia and Japan: An Unresolved Dilemma Between Distant Neighbors* (Berkeley: International and Area Studies, University of Californian at Berkeley, 1993).
- *Russia’s Cold War: From the October Revolution to the Fall of the Wall* (New Haven and London: Yale University Press, 2011).
- Horelick, Arnold L., “The Soviet Union’s Asian Collective Security Proposal: A Club in Search of

- Members”, *Pacific Affairs*, Vol. 47, No. 3 (Autumn 1974), pp. 269-285.
- Jain, Rajendra Kumar, *The USSR and Japan, 1945-1980* (Brighton: Harvester Press, 1981).
- Jentleson, Bruce W., *Pipeline Politics: The Complex Political Economy of East-West Energy Trade* (Ithaca, N. Y.: Cornell University Press, 1986).
- Kim, Young C., *Japanese-Soviet Relations: Interactions of Politics, Economics and National Security* (Beverly Hills: Sage Publications, 1974).
- Klinghoffer, Arthur J., *The Soviet Union & International Oil Politics* (New York: Columbia University Press, 1977).
- Kochavi, Noam, “Insights Abandoned, Flexibility Lost: Kissinger, Soviet Jewish Emigration, and the Demise of Détente”, *Diplomatic History*, Vol. 29, No. 3 (June 2005), pp. 503-530.
- Li, Danhui and Yafeng Xia, *Mao and the Sino-Soviet Split, 1959-1973: A New History* (Lanham: Lexington Books, 2018).
- Lüthi, Lorenz M., *The Sino-Soviet Split: Cold War in the Communist World* (Princeton and Oxford: Princeton University Press, 2008).
- Paine, S. C. M., *The Wars for Asia: 1911-1949* (New York: Cambridge University Press, 2014).
- Radchenko, Sergey, *Two Suns in the Heavens: The Sino-Soviet Struggle for Supremacy, 1962-1967* (Washington, D. C.: Woodrow Wilson Center Press and Stanford, Calif.: Stanford University Press, 2009).
- *Unwanted Visionaries: The Soviet Failure in Asia at the End of the Cold War* (New York: Oxford University Press, 2014).
- , and Lisbeth Tarlow, “Gorbachev, Ozawa, and the Failed Back-Channel Negotiations of 1989-1990”, *Journal of Cold War Studies*, Vol. 15, No. 2 (Spring 2013), pp. 104-130.
- Rostow, Walt W., *The Diffusion of Power, 1957-1972: An Essay in Recent History* (New York: The Macmillan Company, 1972).
- Sanchez-Sibony, Oscar, “Economic Growth in the Government of the Cold War Divide: Mikoyan’s Encounter with Japan, Summer 1961”, *Journal of Cold War Studies*, Vol. 20, No. 2 (Spring 2018), pp. 129-154.
- Simon, Sheldon W., “The Japan-China-USSR Triangle”, *Pacific Affairs*, Vol. 47, No.2 (Summer 1974), pp. 125-138.

- Siniver, Asaf (ed.), *The Yom Kippur War: Politics, Legacy, Diplomacy* (Oxford University Press, 2013).
- Stephan, John J., *The Kurile Islands: Russo-Japanese Frontier in the Pacific* (Oxford: Clarendon Press, 1974).
- , “Japan and the Soviet Union: The Distant Neighbours”, *Asian Affairs*, Vol. 8, Issue 3 (1977), pp. 278-284.
- , “Japanese-Soviet Relations: Patterns and Prospects”, in Herbert J. Ellison (ed.), *Japan and the Pacific Quadrille: The Major Powers in East Asia* (Boulder, Colorado: Westview, 1987), pp. 135-159.
- Togo, Kazuhiko, “Japan’s Foreign Policy under Détente: Relations with China and the Soviet Union, 1971-1973”, in Tsuyoshi Hasegawa (ed.), *The Cold War in East Asia, 1945-1991* (Washington, D. C.: Woodrow Wilson Center Press, 2011), pp. 180-212.
- Vassiliouk, Svetlana, “Energy Politics in Japanese-Soviet Relations in the 1970s: Complementarity and Conflict”, 『ロシア・東欧研究』第35号、2006年, pp. 120-135.
- Vishwanathan, Savitri, *Normalization of Japanese-Soviet Relations, 1945-1970* (Tallahassee, Fla.: Diplomatic Press, 1973).
- Welfield, John, *An Empire in Eclipse: Japan in the Postwar American Alliance System: A Study in the Interaction of Domestic Politics and Foreign Policy* (London: Athlone Press, 1988).
- Westad, Odd Arne (ed.), *Brothers in Arms: The Rise and Fall of the Sino-Soviet Alliance, 1945-1963* (Washington, D. C.: Woodrow Wilson Center Press, 1998).
- Wolff, David, “Japan and Stalin’s Policy toward Northeast Asia after World War II”, *Journal of Cold War Studies*, Vol. 15, No.2 (Spring 2013), pp. 4-29.
- Zubok, Vladislav, *A Failed Empire: The Soviet Union in the Cold War from Stalin to Gorbachev* (Chapel Hill: The University of North Carolina Press, 2009).
- , “Lost in a Triangle: U.S. – Soviet Back-Channel Documents on the Japan Factor in Tripartite Diplomacy, 1969-1972”, *Journal of Cold War Studies*, Vol. 15, No.2 (Spring 2013), pp. 51-71.

### III ロシア語文献

Вербицкий С.И., Коваленко И.И. (ред.). СССР-Япония. К 50-летию установления советско-японских дипломатических отношений (1925–1975). Москва: Издательство «Наука», 1978.

(『ソ連と日本——国交樹立 50 周年に向けて (1925-1975)』モスクワ、1978 年)

Гришачев, С.В. (ред.). История российско-японских отношений: XVIII — начало XXI века. Москва: АспектПресс, 2015.

(『露日関係の歴史——18 世紀から 21 世紀初頭まで』モスクワ、2015 年)

Кошкин, А. Курильский пинг-понг. 100 лет борьбы за острова. СПб.: Питер, 2018.

(『千島列島というピンポンゲーム——列島をめぐる闘いの 100 年』サンクトペテルブルク、2018 年)

Кутаков, Л.Н. Москва-Токио. Очерки дипломатических отношений, 1956–1986. Москва: Международные отношения, 1988.

(『モスクワと東京——外交関係に関する論文集、1956-1986』モスクワ、1988 年)

Латышев, И.А. (ред.). СССР и Япония. Москва: Издательство «Наука», 1987.

(『ソ連と日本』モスクワ、1987 年)

#### IV 中国語文献

崔丕「北約組織対蘇聯能源設備禁運政策的緣起与影響」『世界歴史』、2016 年第 1 期。

李丹慧「1969 年中蘇边界衝突：緣起和結果」『当代中国史研究』、1996 年第 3 期。

牛軍「1969 年中蘇边界衝突与中国外交戰略的調整」『当代中国史研究』、1999 年第 1 期。

#### 未公刊博士論文

ポポヴィチ, エドアルド「第二次世界大戦末期から日ソ国交回復までのソ連の対日政策の展開」東京大学大学院総合文化研究科博士論文、2011 年。

Caldwell, Martha Ann, *Petroleum Politics in Japan: State and Industry in a Changing Policy Context* (Ph. D. Dissertation, University of Wisconsin-Madison, 1981).